

## 4. 内閣府提案書

様式1

## 「地方発の地域経済建て直し」政策コンペ政策提案書

「地域に定着する若者の育成」とそれを支える「産・官・学連携の地域づくり」

松本大学・松本大学松商短期大学部 学長代行 住吉廣行

内閣府への応募にあたって

本学はこれまで文部科学省が推進する各種G Pや補助金申請などは、比較的積極的に行ってきた。しかしながら、他の省庁が管轄するプロジェクトへの応募については余り研究もしておらず、手が着いていない状況であった。

このようなとき、長野県からメールの配信があり、内閣府が主催する「地域発の地域経済建て直し」政策コンペというのがあることを知った。ちょうど少子化で、大学間でも生き残りをかけて学生をいかに募集するかが大きな課題となっている状況であった。長野県は大都会の大学の草刈り場の様相を呈しており、マンモス大学からなりふり構わない学生募集活動が展開されている真っ只中にある。こうした事態を放置していると、一大学の学生募集というような狭い問題にとどまらず、地域に若い人が残らなくなってしまうという事態になってしまう。そうすると地域の活性化どころか、夕張市のように地域が崩壊してしまうという恐れを抱かせる状況に陥る可能性を心配しなければならなくなってしまう。

そこで、駄目でもともと、言うべきことはきちんと行って、少なくとも地方にあって元気な松本大学は、地元に残る学生を集め教育して、地域社会と協働して地域活性化のために貢献するのだという意思表示だけはしておこうと、内容の重さに比べて、比較的軽い気持ちで応募した。それがなんと、短期間の内に全国から59件の応募があり、その約10%の6件が面接審査（シンポジウムでの発表）に残った。費用の補助が付いたのは上位3件であったが、本学は残念ながら入賞にとどまった。しかし、大学側の主張が受け止められた、しかも経済政策を担当する部署から認められたということに、意を強くしており、有意義な結果になったと思っている。

## 地域の現状

## (1) 政策提案に該当する地域

長野県全域

## (2) 当該地域の特性「強み・弱み」

長野県は北アルプスをはじめとする山岳の国立公園を有し、温泉や湧水など豊かな自然に恵まれた、全国でも屈指の観光地を形成している。スキーなど自然を相手のレジャーも身近に楽しめる点などが強みと言える。また、農業県でもあり新鮮野菜も豊富で食事面を含む健康についてのケアも充実しており、全国一の長寿県にもなっている。一方それとは裏腹に、県下は山で囲まれた4つの地域に分かれており、その結果どの地域でも人口は、長野市で35万人、松本市で23万人、他の上田、岡谷、伊那、飯田なども10万人程度の比較的小さな都市になっている。TVなどで盛んに喧伝される大都会の魅力を若者に提供できないのが弱点と言える。

信州の地では弱みを克服しようと都市型のイメージを追求するのではなく、強みを活かし、スローライフなどゆとりある人間らしい暮らしを全面に出した展開を中心に据え、人材の大都市への流出を防ぐための提言を考えたい。

## (3) 当該地域の課題

山に囲まれた地域社会から抜け出したいという志向が強く、若者が大都会を目指し傾向に歯止めがかからず、将来の地域社会を担っていくリーダー的な人材がなかなか残らない・育たないという点が大きな課題と認識している。Uターンも多くはなく、いったん外へ出てし

まえば、若者はなかなか故郷へは戻ってこない。

このような状況では、地域社会の明るい将来設計を描くことが難しく、農業に限らず地域産業の振興を含め、地域社会を良く知って、その将来を担う後継者をどのように育成するかが大きな課題となっている。これを打破するための施策、地域の魅力づくりにつながる提言を考え、若者が定着できる地域づくりに取り組みたい。

## 1. 政策提案のテーマ

b. まちづくり・ひとづくり に関連して

タイトル：「地域に定着する若者の育成」とそれを支える「産・官・学連携の地域づくり」

## 2. 政策提案の概要（150字程度）

「地域経済建て直し」の要点は、若く意欲ある人材が地元に残り、地域の将来を担う流れを創れるか否かにある。大都市一極集中を回避し、地方の疲弊を防ぐための人材確保策について、人材育成の要となる松本大学の研究・教育力を最大限活用し、就学支援や職場の提供面では地域社会、特に産・官との連携を強め、総合的視野に立って提言したい。

## 3. 政策提案の内容

### （1）産・官・学の連携で人材流出を止める - 「健康づくり」がテーマの「観光」 -

長野県は豊かな環境に恵まれ、長寿県としても知られている。こうした地域の特性を活かし、「観光・環境」と「健康づくり」とを結びつけた施策を、地方自治体との協力で発展させたい。松本大学はスポーツ健康学科において「健康づくり」の指導者を育成し、観光ホスピタリティ学科において「環境・観光」のプランニングを行っており、産・官・学の連携による地域活性化を図る条件を備えている。地方自治体や産業界では、①人材育成を強力に進めるため、地元に残ることを前提とした地域奨学生制度の実現、②卒業後に大学で獲得した能力を活かす職場の提供を考えていただく、など意欲に燃えた人材確保のための具体的施策が必要である。特に首都圏の大学では新入生確保のため、地域振興などどこ吹く風でなりふり構わず地方の高校生を根こそぎ獲得する戦術に出ている。傍観せずこれを防ぐことが地域活性化の第一歩と位置づける必要がある。さもなくば第二、第三の夕張市の発生は至す。この危機感を行政・産業・高校を含む教育界の三者全体で共有できるか否かに地域再生はかかっている。

### （2）地域経済への貢献を考える - 「健康づくり」は先行投資 -

松本市で展開されている「健康づくり」では、医療費は通常の2割減となっている。もし全国展開となれば、6兆円規模の経済効果を及ぼす。それだけの「病後の治療」への投資を行うのならば、「予防のための健康づくり」に先行投資すれば、何年にも渡っての経済効果が期待できる。この先行投資が、奨学金であったり職場の確保でもある。また観光が健康づくりと結びつけば、他県からの誘客効果も期待でき、観光産業の活性化も同時に図れる。さらに将来を担う若者を地元で確保できるという、本当の意味での地域振興にもつながり、一石で何鳥もの効果をもたらす施策となる。

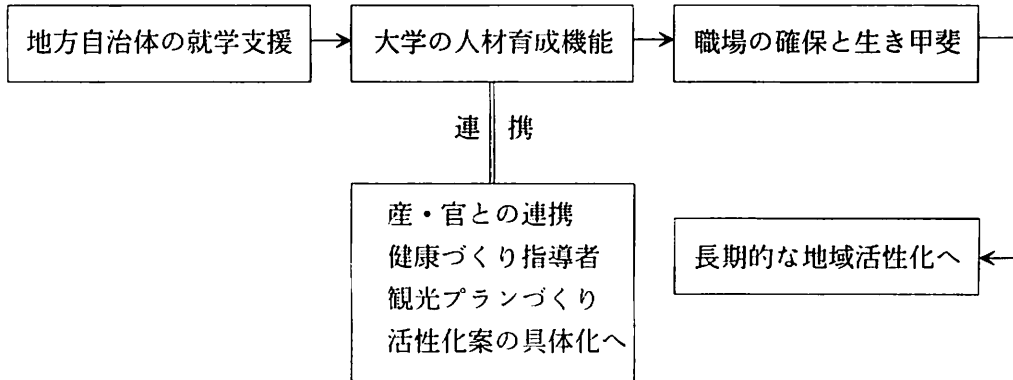
### （3）魅力ある地域社会の将来ビジョンを示し、地方分権の基盤を強化

大都会への一極集中の傾向が強まる中、地方での意欲ある人材の確保は至難の業である。しかし、この人材確保が出来なければ地域社会は衰退の一途を辿ることになる。だからこそ、学び・職場・子育て・住環境などの諸点で若者にも魅力ある故郷を創出する必要がある。幸いなことに長野県は自然の魅力に溢れ、子育て・住環境としては申し分のない地域であるから、後は生き甲斐や働きがいのある地域ビジョンの確立である。先ずは「学び甲斐と魅力ある大学づくり」とそれを全面的に支える地域社会（就学と雇用の支援）との連携を強め、誰

ものが暮らしやすい街づくりにつなげていきたい。

4. 政策提言が受賞した場合の研究実施について

(1) 研究工程表



このような流れを作り出すために、自治体への動きかけや、健康づくりのための運動 指導の実践と、それと結びついた「健康づくりツアー」を長野県下の各観光地と連携して実施する。そのための具体的なプランづくりのためにも、産・官・学の協働体制をつくりあげる組織的探求が必要になってくる。

「地方発の地域経済建て直し」セミナー政策提言プレゼンテーション用パワー・ポイント

一次審査通過の連絡が入ったのは12月12日。発表日は20日、「一週間ほどしかありませんが大丈夫ですか？是非出席して欲しい」という丁寧な対応でした。ノー・マークの選定だったと推察しています。そこで、広報課の片庭、田中、赤羽氏らの絶大な協力を得て、プレゼン用のパワー・ポイントを突貫工事で仕上げました。内容は住吉が根本氏の協力も得て準備し、デザインは片庭、資料収集を田中、赤羽の各氏が受け持ってくれました。



当日は20分という限られた時間でしたので、事前に松田課長にも聴講いただき、時間の調整に努めた結果、司会者からは完璧なプレゼンだと褒められました。最終結果は少し残念ですが、本学の主張が太田弘子大臣らの前で堂々と展開でき、強い印象を与えたことは事実です。終了後、大臣との記念写真も撮りました。発表内容は内閣府のホームページにもアップされましたのご覧下さい。

～「地方発の地域経済建て直し」セミナー～ 2007年12月20日

**「地域に定着する若者の育成」  
と  
それを支える「産・官・学連携の地域づくり」**

研究機関名 学校法人松商学園 松本大学  
機関代表者 中野 和朗  
住 所 〒390-1295 長野県松本市新村2095-1  
電 話 等 TEL0263-48-7200 FAX0263-48-7290  
組 成 者 松本大学人間健康学部 スポーツ健康学科  
住吉 広行

**松本大学**

～長野県の現状～

**学校法人松商学園と松本大学**

○ 松商学園の歴史

- 松商学園は創立109周年
- 高等学校は、甲子園の常連校
- 松商短期大学部は創立54年
- 松本大学は開学6年

○ 松本大学のミッション

- ① 「地域を牽せにする」人づくり
- ② 「地域の必需品」と言われる大学づくり

＜地域貢献がコンセプトとなる理由＞

- 公的資金の導入(地域立大学)
- 地域総合研究センター
- 地域づくり考案「ゆめ」
- 得地的教育手法の展開

●松商学園高等学校  
●松本大学松商短期大学部  
●松本大学  
●2009年度  
中等教育学校設置の準備

～長野県の現状～

## 長野県の状況

○ 美しい自然環境

○ 日本の中心に位置し、世界へ発信し地域を支える「産業」  
製造業(精密・食品)など セイコーエプソン、キッセイ薬品、伊那食品工業...  
地場産業(商業、流通、観光、農業)

～長野県の現状～

## 三ガク都「松本市」

山岳 音楽 学問

北アルプス 英ヶ原高原

旧・開哲学校  
旧制松本高等学校

サイトウキネン・フェスティバル  
スキ・メソード

～長野県の現状～

## 歴史・文化の薫るまち

～歴史に刻まれる街「城下町」「門前町」「宿場町」～

○ 美術館 ○ 文学の舞台 ○ 歴史

原田泰治美術館  
無言館(窪島隆一郎館主)  
東山魁夷美術館 など

文学の舞台  
松本大学 村野幸三館  
松本大学 文学部

歴史  
香光寺  
善光寺

庭 庭園  
窪田 空穂 など

～長野県の現状～

## 若者への対応

大学進学率と長野県内への残留率

松本大学設立の要因

- 長野県の高校生に向けて地元高等教育機関の充実
- 地域への安定的人材供給
- 「地元で通える大学」=保護者にとって安心と学費の軽減
- これまでに無い学問分野の提供と専門家(スポーツや栄養学)の育成
- 若者が集まる「地域の元気印」のシンボル

～日本の状況～

## 地域経済建て直しの視座

「大都市」対「地方」の格差

アジアなど国外の進出  
地方・都市への進出

大都市から地方への  
資本と情報の一方の流れ

地方社会の劣化

高齢化  
社会

クローカルな視点での  
地方からの情報発信

多様な価値観の共有と双方向・相補的關係

格差化された尺度  
都市圏内人間関係  
産別・商賈地の空洞化  
地場産業の衰退

- 中央企業の本拠地に対しての地方の優遇
- 専任者、若手社員 公共交通機関の発達
- 都市への大規模流通施設 進出の出現

～日本の状況～

## 大学の状況

華やかな都会

マツモト大学

マツモト大学

孤立 無関心

温かい地方社会

マツモト大学

● オーダーメイド教育  
● 「顔」の見える人間関係

受験生

企業の支援  
将来のキャリアデザイン

追られる受験生の選択  
都市型志向と、なりふり構わず学生募集

● 新しい教育理念と教育手法  
● 人づくりと活力ある街づくり  
● 地域経済の建て直し

～提案～

## 政策提言の要点

都庁志向 / 系列化  
地方大学・短大の苦戦の行き着く先は...

地域を担う、**●**づくりとは、

大学の空洞化

↓

若者人口の流出

↓

リーダー不在

↓

地域社会の衰退

地域づくりへの  
産・学・官の連携の必要性

- 地域の実情を良く知っている。
- 学問的力量を身に付け、それを地域の問題解決に活かせる
- 地域社会をオーガナイズできる広い視野
- 力を活かせる職場がある。
- 若者を応援する環境整備

～提案～

## 役割分担(大学の視点から)

**松本大学** 地域に貢献できる人材の育成と知的貢献  
管理栄養士、健康運動指導士、教員、企業人、起業人の育成。各種共同研究の展開

**地域行政** 就学支援、人材受け入れ、教育行政の充実  
生涯教育、各種実習の場提供

**産業** 人材受け入れ、学生の教育支援(インターンシップ)  
アウトキャンパス・スタディ、教育サポーター制度  
商品開発(研究提携)

～提案～

## ハードからソフト重視へ

これまで 建物をたて、人目を引く集客

ハード面の整備 ↔ 人口集出(経済効果)

一次的な効果はみられるものの、施設の維持、経営の維持、資金の返済等長期的なリスクも大きい。

これから 地域の創造力と活力による魅力づくり

人 → 地域でソフト面の充実 ← 人

地域の創造力と活力により、「魅力」「ブランド」を作り出し、それらを求めて人が来る、若者が集う。見えない「モノ」づくり

～提案～

## ソフト面をどう充実させるか

○ 産・学・官の連携で創出

行政 ↔ 産業界 ↔ 大学

All Win の関係

松本市、商工会議所と連携  
観光ホスピタリティカレッジ

地元企業でのインターンシップ

～具体策1～

## 健康づくり

○ 地域の「健康づくり」とそれを支える「人材育成」

高齢化社会に向けた医療費削減の実現

医療費の削減(健康づくり)の試算(仮定)と一歩市民の役割

22,901円

2004年1日 2005年1日 2006年1日

**地方財政**

- 医療費の削減効果

**行政と大学**

- 健康福祉の政策の充実
- 大学での教育(現場実習)

**企業と大学**

- 企業の健康づくり活動
- 大学での教育(現場実習)

～具体策1～

## 健康づくり

地域の方への健康づくり指導の実践 = 大学教育の一環

「市民への健康づくり指導の実践」  
南箕輪村、筑北村、諏訪市などの市町村と連携し、市民の健康づくりのための運動指導を松本大学にて実施。

中日新聞 2007年12月6日掲載

松本大 大規模研修と協定  
「市民への健康づくり指導の実践」

諏訪市長が来学、自ら体験し、健康づくりの重要性と継続できるメニューの実践

筑北村の方への運動指導の様子

学生 実践的な指導法の  
実習の機会

市民 充実した施設と  
個別運動処方  
体験と健康に関する  
学びの機会

~具体策2~  
**グリーン・ツーリズムの展開と  
アグリ・ビジネス**

○ 自然と文化に親しむ新しい観光

エコ・ツーリズム、グリーン・ツーリズムの展開


- 自然に親しみ、学び、体験できる観光。
- 長野県では、多くの資源が利用されるのを待っている状態。

地産地消、新鮮・無農薬野菜、食育

- 地元食材による製品開発。
- 生産者の「顔」の見える流通システム。
- 安全・旬のものをバランスよく食す「食育」活動。

観光産業の発展

- 農業の発展は景観を守り、地域の発展を支える。
- やって来て楽しい農業のためのブランド化と販路の拡大。



~具体策2~  
**アグリ・ビジネスの例**

生産者の見える農作物  
(都農連携でのビジネス展開)

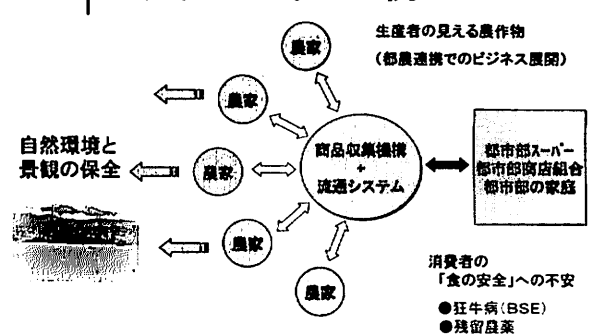
商品収集機構 + 流通システム

都市部スーパー・都府県商店組合・都市部の家庭

消費者の「食の安全」への不安

- 狂牛病(BSE)
- 残留農薬
- 加工会社の管理体制

自然環境と景観の保全



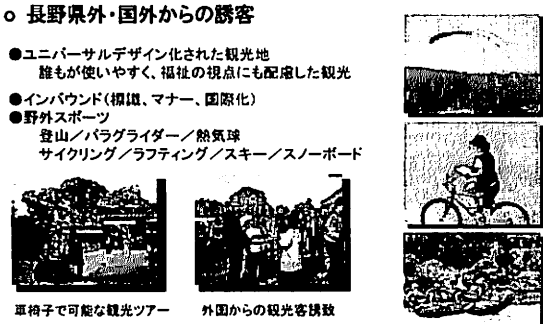
~具体策3~  
**ターゲットを絞った観光**

○ 長野県外・国外からの誘客

- ユニバーサルデザイン化された観光地  
誰もが使いやすく、福祉の視点にも配慮した観光
- インバウンド(標準、マナー、国際化)
- 野外スポーツ  
登山/パラグライダー/熱気球  
サイクリング/ラフティング/スキー/スノーボード

車椅子で可能な観光ツアー

外国からの観光客誘致



~具体策3の事例~  
**「学び」「遊び」「体験」する観光**

● 団塊の世代対象のツーリズム

民宿、ホテル、美術館、博物館、公園、クラインガルテン、大学の講義等を連携させた、長期滞在型旅行の提案

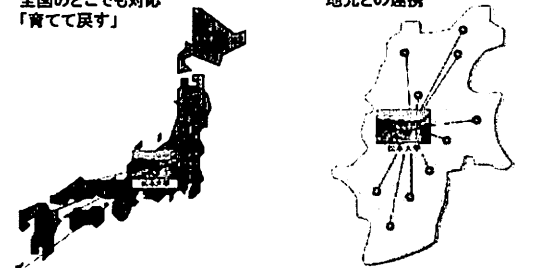
観光⇄「学びと遊びと体験」  
「大人」家族向け商品提供



~具体策4~  
**長期的な施策 ~地域活性化への高大連携~**

● パターン① 高大連携  
学問分野での連携  
全国のどこでも対応  
「育てて戻す」

● パターン② 大学・地域連携  
地域を担う人材育成が共通目標  
地元との連携



● **まとめ**

地域づくり ↔ 人づくり

- 若者に魅力溢れる街・地域づくり
- 若者が魅力感じる大学づくり
- 誰もが安心して、豊かに暮らせるコミュニティの創出
- 「幸せづくり」の松本大学の本领発揮
- 産・官・学連携で、地方ならではの魅力を  
地方から情報発信